

学部学生のみなさんへ

2026 年度秋学期 日本語教育センター ラーニング・アシスタント募集について（お知らせ）

L. A. とは、関西学院大学で提供される科目を対象として、授業担当者の授業運営を補佐したり、履修学生の指導や相談をととして教育および学習の支援を行う学部学生スタッフの総称です。

なお、L. A. には下記のとおり、業務報酬を支払います。しかし、単なるアルバイト業務ではなく、関西学院大学における教育活動の一環として位置づけていますので、そのことを十分に理解した上で、定められた期間内に申込手続を行ってください。

■L. A. 募集要項

募集科目 募集人数	別紙募集科目一覧参照（注）L. A. に採用された学生は当該学期に当該科目を履修することはできない
任 期	2026 年度 秋学期
申込資格	・ 本学の学部 に在籍中の 正規学生 （注）大学院生、2026 年度秋学期に休学・退学する（予定者含む）等の学生は申込ができない
業務内容	L. A. は授業担当者の指示を受け、次の業務に従事する。 1）学生の学習活動への助言対応補助 2）学生の学習上の質問・相談対応補助 3）学生の学習進捗状況等に関する授業担当者への報告 4）授業運営の補助 5）その他授業担当者が必要と認めた教育活動上の補助 ※業務内容詳細：次ページで確認して下さい。
報 酬	I 種：1 時間あたり 1,340 円
申込方法	「ラーニング・アシスタント申込書」を提出する。 ・ 提出方法：下記の URL を使い、web フォームにて提出 ・ 提出 URL： https://forms.cloud.microsoft/r/FYKxzZj36Q ※メールでの申込は受け付けないのでご注意ください。
申込要件	・ 下記 URL よりオリエンテーション動画（約 5 分間）を視聴し、センターの活動や開講科目への理解を深めてから申込をしてください。 ・ https://youtu.be/x5lxsC0uMIs
申込締切	2026 年 8 月 7 日（金）16：00 まで
選 考	申込書類をもとに日本語教育センターで選考を行います。 書類選考結果は 8 月 28 日（金）頃に申込者に kwic にて通知します。 なお、今回は I 種採用となるため選考通過者を対象に二次選考（面接）を行います。 面接時間等の詳細については選考通過者に別途通知します。

◆重要◆ 9 月 26 日（土）9:30～11:30 に LA 採用者を対象とした共通研修を実施します。
（採用決定者は必ず参加してください。過去に同共通研修に参加された方は、今回再度参加不要です。）

◆2026年度秋学期 日本語教育センターラーニング・アシスタント募集科目一覧◆

種別	科目名	担当者	曜日・時限	募集人数	勤務回数	主な業務内容	授業内容	備考
I 種	日本語Ⅳ	森本 郁代	水3 金1	7名	9回	エクセルを使ったアンケート結果の集計と分析の仕方について、受講生とともに考えアドバイスをする。	アンケート調査を行い、小論文を執筆する。小論文の内容についてプレゼンを行う。	全9回 10月2日(金)、10月9日(金)、10月16日(金)、10月23日(金)、10月30日(金)、11月6日(金)、11月13日(金)、11月20日(金)、12月4日(金) 担当者が作成したエクセルの講習会動画を必ず事前に視聴すること。
	ビジネス日本語C (西宮上ヶ原キャンパス開講)	山田 真知子	金3	3名	12回	授業には一受講者として参加しつつ、自己分析・企業分析に関するディスカッションなどのグループ活動のサポートを行う。	日本での就職活動を念頭に、履歴書やエントリーシート、自己PR文などを書く準備として、自己分析、企業分析を行う。授業終了時には、履歴書、自己PR文などが各自完成していることを目標とする。	この授業では自己分析・企業分析などに関する課題が毎回あるが、留学生と同じ課題を必ず行うこと。
	ビジネス日本語C (神戸三田キャンパス開講)	山田 真知子	火3	2名	12回	必要があれば適宜留学生の文章や発話の修正などの日本語サポートを行う。		
	日本語学習科目 (アカデミック日本語 (レベル8))	佐野真弓	木2	2名	13回	・留学生による調査活動において、準備や発表の過程を支援する ・グループでの話し合いに参加し、日本語で意見交換を行う	この授業では、口頭発表を通して日本語の運用力を高めること、グループワークを通じて対話的に合意を形成する力を育むことを目指しています。	・原則として、全14回の授業に参加できる方を歓迎します。 ・ノートパソコンまたはタブレットをご持参ください。
	多文化共修科目 (言語マイノリティ支援 入門演習)	森本 郁代	火3	2名	12回	言語マイノリティ支援の現場についての調査とフィールドワークの支援を行う。	日本社会における言語マイノリティに対する支援の現状を学ぶとともに、自ら支援の現場に赴いて調査を行い、言語マイノリティが直面している社会的課題とその解決策について提案を行う	2回生以上の者 フィールドワークの経験がある、もしくは関心がある者 授業時間外に1～2回実施するフィールドワークに同行できる者